

要望書

東武野田線(野田市)連続立体交差事業の
計画的かつ円滑な事業実施のため、関連
事業を含めた国の道路関係予算の確保

令和元年8月

千葉県 野田市

野田市は、千葉県北西部に位置し、江戸川や利根川を挟んで埼玉県及び茨城県と接し、市域を東武野田線が南北に縦貫しているため、市街地は分断され、両県の発展に伴う交通量の増加により、主要地方道つくば野田線及び主要地方道野田牛久線と交差する愛宕駅や野田市駅付近は、慢性的な交通渋滞が生じ、市域発展の大きな障害となっております。

こうしたことから、東武野田線連続立体交差事業により、愛宕駅、野田市駅の2駅を含む延長約2.9キロメートル区間の鉄道を高架化し、11箇所の踏切除却と交差する幹線道路の整備により、交通渋滞や踏切事故の解消、歩行者等の安全確保を図り、鉄道により分断された市街地の一体化などのまちづくりを進めております。

また、昨年度は、予算について多大なるご配慮をいただき、厚く御礼申し上げます。

事業の進捗といたしましては、全区間において高架橋工事を本格的に進めるとともに、新しい駅舎の建築工事にも着手する予定でございます。

野田市は、本事業に合併特例債を活用し、令和5年度の事業完了を目標に全力で取り組んでおり、バリアフリー法による令和2年度までの移動円滑化基準への適合整備の方針に基づき、事業促進を図っております。

なお、関連事業につきましては、連続立体交差事業とともに駅前広場や駅前線、鉄道と交差する道路の整備など、高架切替えに合わせ、事業効果を発現させるため、重点事業に位置付け、街路事業や土地区画整理事業等を積極的に推進しているところです。

こうした状況を踏まえ、国におかれましては、当連続立体交差事業及び関連事業を着実に進めるため、次の事項について特段の御配慮を賜りたく要望いたします。

- 一 東武野田線(野田市)連続立体交差事業の計画的かつ円滑な事業実施のため、関連事業を含めた国の道路関係予算の確保

令和元年8月27日

野田市長 鈴木 有

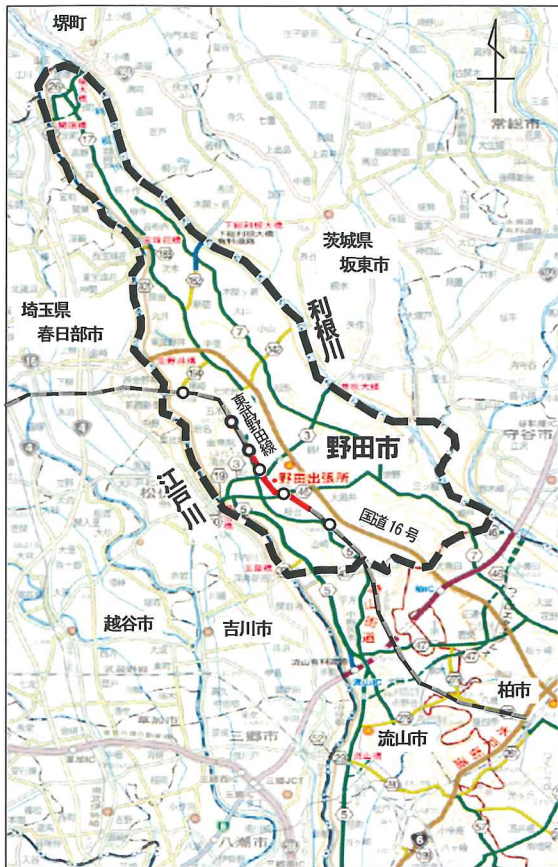
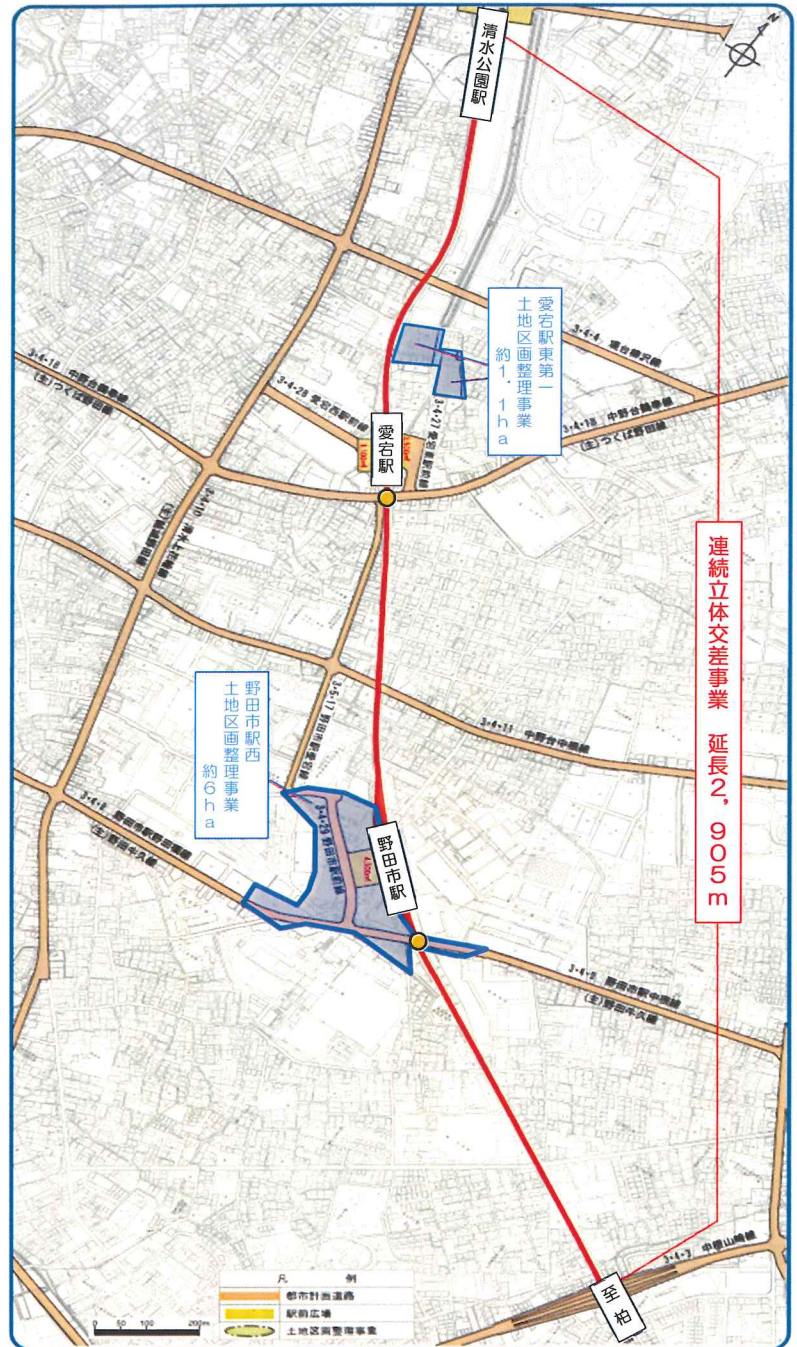
参 考 資 料

- 事業概要
- 連続立体交差事業の多面的なストック効果
- 事業推進のための財政的な課題
- 計画的、安定的な事業推進の必要性
- 連立関連事業の推進

○事業の概要

都市計画決定	平成 17 年 8 月 23 日
事業認可	平成 20 年 3 月 31 日
事業区間及び延長	区間 清水公園駅～梅郷駅間 延長 2,905m
除却踏切	11箇所
立体交差する道路	16路線うち都市計画道路4路線
駅計画	愛宕駅 相対式ホーム 野田市駅 島式ホーム

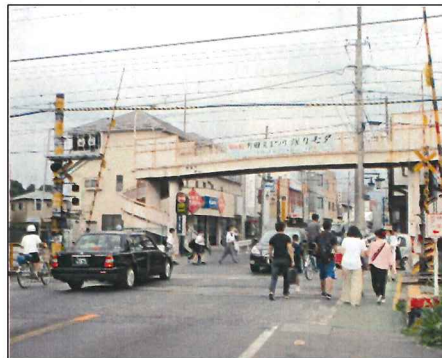
○事業区間



○現状



踏切ボトルネック箇所
(主要地方道つくば野田線)



愛宕駅前踏切の歩道狭小
(主要地方道つくば野田線)



駅のエレベーター・エスカレーター未整備
(愛宕駅・野田市駅)

連続立体交差事業の多面的なストック効果

・まちの安全

交通渋滞の解消

〔主要地方道 つくば野田線
主要地方道 野田牛久線〕

踏切事故解消

消防・救急活動の迅速化

・まちづくり

街の分断が解消され市街地一体化

〔市道新設4箇所
踏切除却11箇所〕

・移動時間の短縮

〔ボトルネック踏切2箇所が解消〕

・都市交通の円滑化と安全性の向上

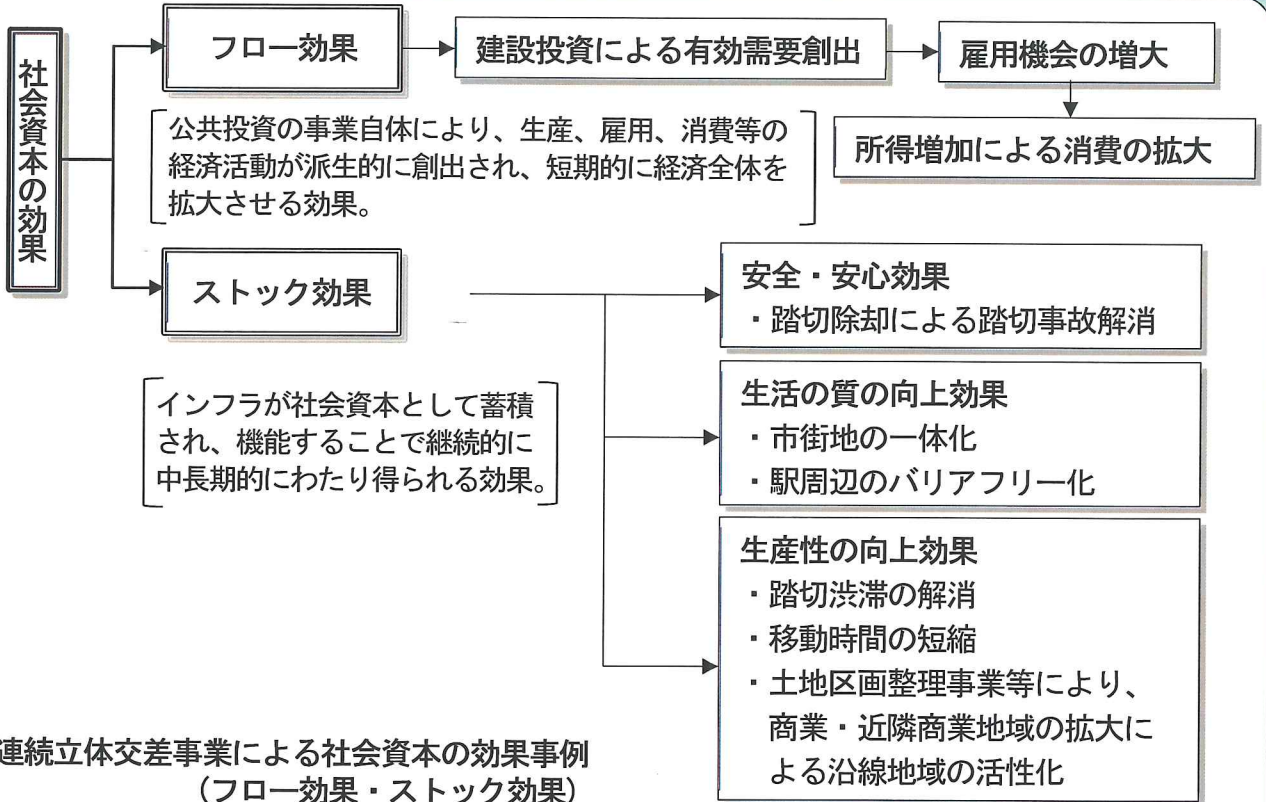
・総合的なまちづくりの促進

踏切交通遮断量

主要地方道	つくば野田線	75,461 (台・時/日)
主要地方道	野田牛久線	57,266 (台・時/日)

(平成25年度交通実態調査(県実施)結果より)

◎連続立体交差事業によるストック効果



連続立体交差事業による社会資本の効果事例
(フロー効果・ストック効果)



事業推進のための財政的な課題

◎連続立体交差事業の残事業

総事業費 353 億円

事業年度：平成 19 年度～令和 5 年度

事業進捗率：44% (平成 31 年 3 月時点)



**残り 4 カ年
残事業費 (令和 2 年度以降)
約 133 億円**
(年間平均約 33 億円の事業費を要す)

事業費の不足による
事業進捗の遅れ

◎市道占用による通行制限の長期化



※道路幅約 4m の内、約 2m 道路占用

◎長期化に伴う沿線住民への影響



※高架橋工事に近接

事業スケジュール

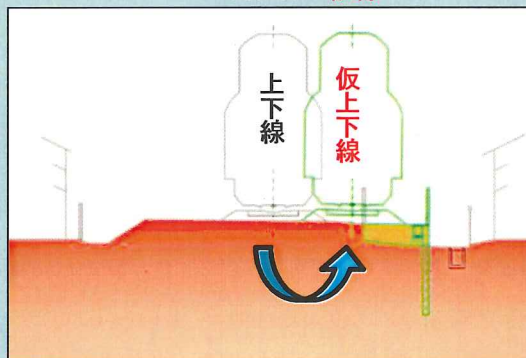
平成 19 年度	都市計画事業認可
平成 20 年度	仮線用地交渉着手
平成 22 年度	仮線工事着手
平成 26 年度	仮線用地取得 (借地) 完了
平成 29 年度	全線仮線切替え完了
平成 30 年度	高架橋工事
令和元年度	高架橋及び駅舎工事
令和 2 年度	駅舎バリアフリー化の適合 (事業効果の発現)
令和 5 年度 (2023 年度)	事業完了

※合併特例債を活用し、令和 5 年度までの事業完了及びバリアフリー法に基づく令和 2 年度までの駅部移動円滑化の整備を目標に、計画的かつ継続的に工事を進め、事業の早期完了を目指す。



**工事の長期化による
沿線住民への影響**

◎鉄道近接による騒音・振動等の長期化 現在線 仮線



※市道占用における市民生活への影響

◎長期化による事業効果発現の遅れ



※愛宕駅高架化に伴う作業ヤードとして使用

計画的、安定的な事業推進の必要性

◎市内各駅のバリアフリー化の推進

野田市移動円滑化基本構想
平成 19 年 3 月策定

愛宕駅周辺 → 重点整備地区
野田市駅周辺 → 準重点整備地区
(川間・七光台・清水公園・梅郷)

川間駅 平成 23 年 3 月完了
七光台駅 平成 19 年 2 月完了
清水公園駅 平成 19 年 3 月完了
梅郷駅 平成 19 年 5 月完了
**愛宕駅、野田市駅
以外完了**

近隣駅バリアフリー状況
(東武鉄道HPより)



連続立体交差事業により
バリアフリー化の推進

◎駅前広場から東口仮駅舎へのアクセスが可能



※平成 30 年 3 月 愛宕駅東口仮駅舎の供用開始

◎愛宕駅東口仮駅舎にスロープ設置

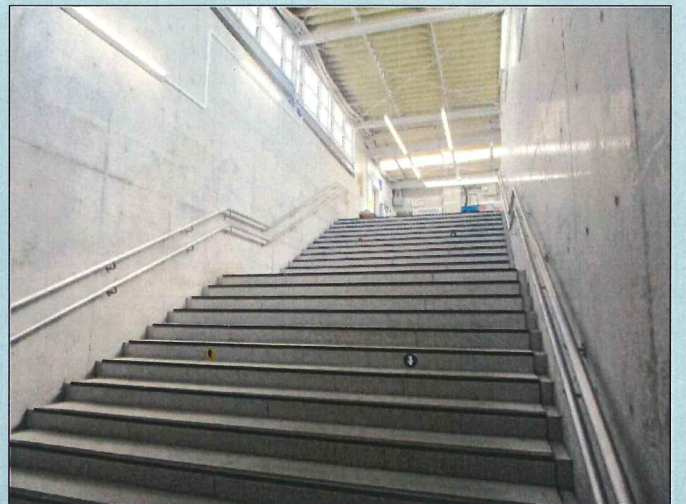


◎駅のバリアフリー化(愛宕駅)



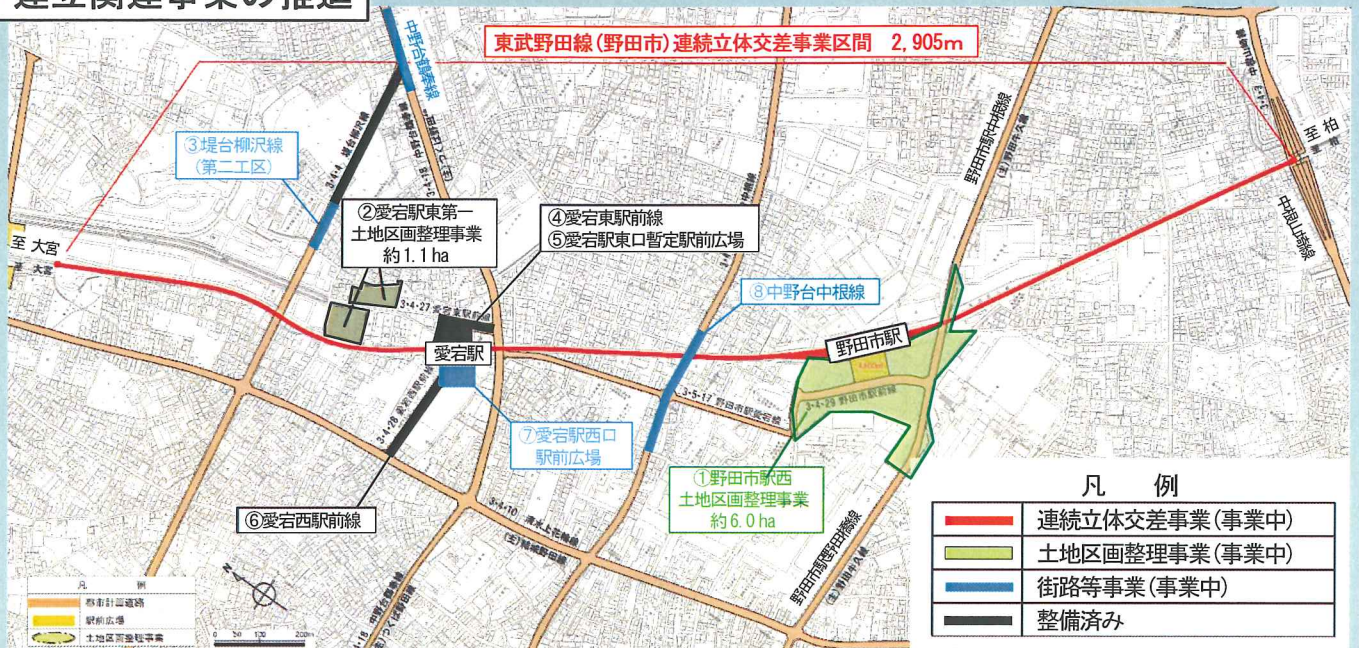
※愛宕駅階段 (エレベーター・エスカレーター未整備)

◎駅のバリアフリー化(野田市駅)



※野田市駅階段 (エレベーター・エスカレーター未整備)

連立関連事業の推進



※土地区画整理事業や駅前広場など一体的な整備

土地区画整理事業

土地区画整理事業

- ①野田市駅西土地区画整理事業 約6.0ha 令和3年度完了予定 市施行
- ②愛宕駅東第一土地区画整理事業 約1.1ha 令和元年度完了 組合施行

街路事業等

- ③堤台柳沢線(第二工区) 約110m 令和3年度完了予定 市施行
- ④愛宕東駅前線 約90m 平成26年度完了 市施行
- ⑤愛宕駅東口暫定駅前広場 約3500㎡ 平成27年度完成 市施行
- ⑥愛宕西駅前線 約230m 平成24年度完了 市施行
- ⑦愛宕駅西口駅前広場 約3100㎡ 令和2年度完了予定 市施行
- ⑧中野台中根線 約250m 令和5年度完了予定 市施行

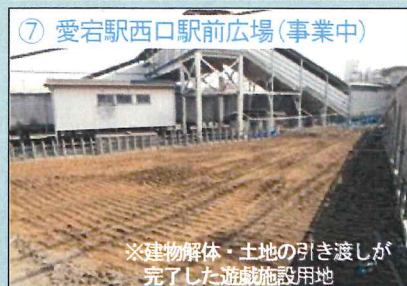
① 野田市駅西土地区画整理事業(事業中)



② 愛宕東第一土地区画整理事業



愛宕駅周辺の街路事業



連立関連の街路事業

